



定住促進と地域活性化の取組

令和5年7月14日

知夫村長 平木伴佳

事業の背景： 知夫村は

島根半島の沖合い約40～60kmの
日本海上に浮かぶ隠岐諸島のうちの1つ、
本土から最も近い知夫里島が
「**知夫村**」です。

島根県において唯一の村

- ▶ 面積13.70km²
- ▶ 人口605人（R5.6.1時点）
- ▶ 高齢化率 45.6%

牛の頭数： 654頭、 たぬき約2000頭



人口推移



| | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 | R4 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 自然増減 | ▲14 | ▲7 | ▲9 | ▲6 | ▲13 | ▲6 | ▲7 | ▲7 | ▲8 | ▲4 | ▲3 | ▲1 | ▲1 | ▲7 | ▲10 |
| 社会増減 | ▲29 | ▲6 | ▲9 | ▲15 | ▲16 | 3 | 4 | 3 | 28 | 4 | 26 | 8 | 1 | ▲4 | ▲6 |

(注)人口(10月1日現在)は、H27年及びR2年(国勢調査)を除き、国勢調査をベースとした推計人口

- 平成28年度に策定した「第1期総合戦略」では、「30減5増」を戦略目標に、社会増を図る諸施策を積極的に展開！
⇒ H28人口増加率3.25%、社会増加率4.55% 『知夫村の奇跡』
- 令和2年度に策定した「第2期総合戦略」では、「25減20増」を戦略目標に、人口減少カーブの更なる上方シフトを目指す！
⇒ H22以降、600人以上の人口をキープ

医療



保健師、栄養士と連携をとりながらへき地医療の特性を生かしたきめ細かい対応ができる強みがあります。

緊急時は救急艇又は救急ヘリで患者を隣の島、本土へ移送できる体制を作っています。

一方で、医師の確保が長年の課題となっており、現在は県の組織へ派遣を依頼しています。

知夫村診療所（建物1階部分）

医師 1名

看護師 3名

発熱外来（黒コンテナ）

新型コロナウイルス感染症対策として使用

知夫村歯科診療所（建物2階部分）

歯科医師 1名

歯科衛生士 1名

歯科助手 1名

* 令和5年度より本村の卒業生が勤務

高齢者生活福祉センター「招福苑」



平成4年建造

平成9年増築棟建造

平成26年居室2部屋を改修

居室 18部屋【定員24人】

指定管理者制度により

「知夫村社会福祉協議会」が運営
介護サービス

通所介護・訪問介護・短期入所
居宅介護支援事業所

畜産業



繁殖牛

畜産（黒毛和牛・繁殖） 黒毛和牛の母牛に
子供を産ませて、6～10か月齢で全国の肥育
農家へ販売

「島まるごと放牧地」が特徴

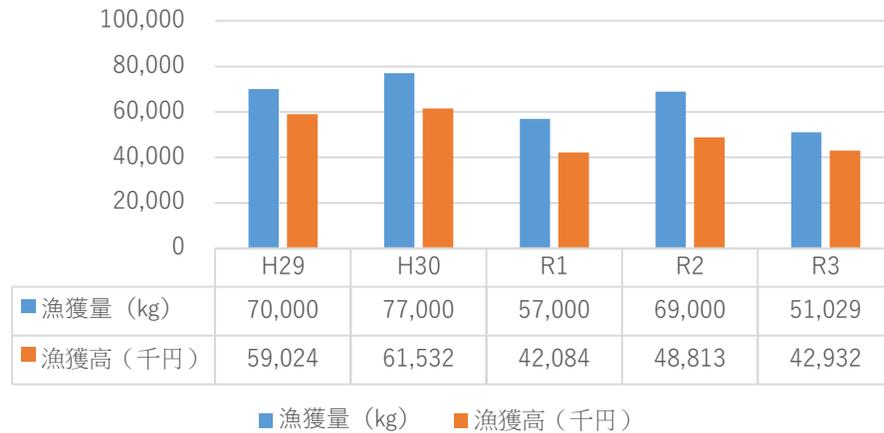
畜産農家の世代交代と繁殖牛の飼養状況

| | 合計 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 | 頭数 | 平成30年比 |
|-------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| 平成30年 | 24 | | | 4 | 4 | 1 | 7 | 5 | 3 | | 444 | 105.5% |
| 令和元年 | 25 | | | 5 | 3 | 3 | 5 | 6 | 3 | | 459 | 109.0% |
| 令和2年 | 22 | | | 7 | 2 | 3 | 5 | 4 | 1 | | 526 | 124.9% |
| 令和3年 | 21 | 1 | | 8 | 2 | 3 | 4 | 2 | 1 | | 578 | 137.3% |
| 令和4年 | 22 | 1 | | 6 | 5 | 3 | 4 | 2 | 1 | | 638 | 143.7% |

足腰が強く、病気になりにくい牛が購入できると全国の肥育農家から評価が高い。新規就農者が多く若返りを果たしており、村全体の牛の飼育頭数はここ数年で40%以上増加しています。

水産業

過去5年間の漁獲高の推移



※H29年度と30年度は村政要覧より、R1年度～3年度はJ F調べ

<知夫で水揚げされる主な魚種>

サザエ、アワビ、ワカメ、ヨコワ、マダイ、ブリなど

<漁師の数> 62人 (令和4年3月現在)

<年齢構成> 20代 1人 40代 4人
50代 8人 60代 17人
70代 26人 80代 6人

<漁法>

かなぎ漁 20人 刺し網 12人 一本釣り 24人
イワガキ養殖 6人

本村の水産業は、畜産業と並ぶ伝統的な基幹産業の1つであり、主な漁業形態としては、小型漁船での一本釣り、刺し網、採貝藻などの沿岸漁業です。

水産資源の減少により漁獲高が伸び悩むなかで、魚価の低迷や経費の高どまり、量的な制約から水産加工や流通販売体制の遅れなど厳しい経営環境を強いられ、漁業者の高齢化・担い手不足の問題も深刻となっています。



知夫村水産加工冷凍施設

水産業を盛り上げるための新たな挑戦



令和3年7月竣工

木造（一部RC造）2階建て

建築面積：379m²

主な設備：

急速冷凍機・高圧滅菌釜・蒸気釜・

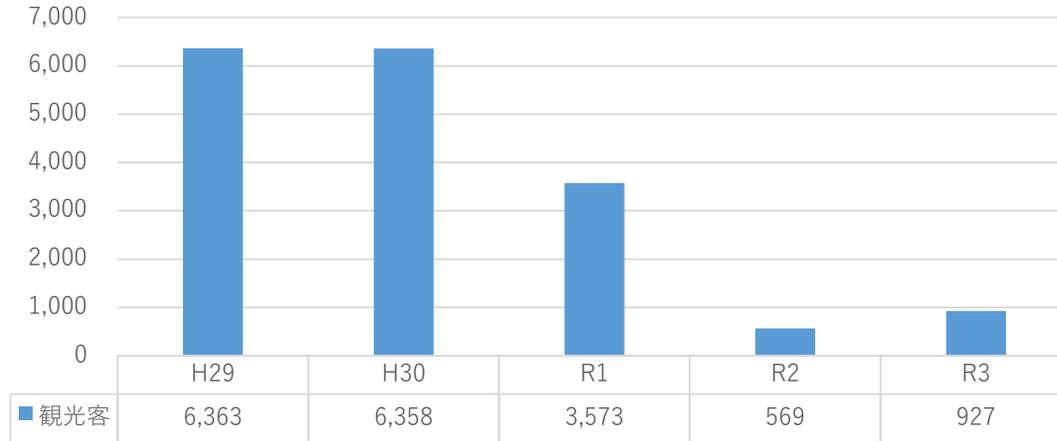
低温調理器・粉碎機・燻製炉

HACCAP対応施設

知夫村水産加工冷凍施設の指定管理業務をおこなう知夫里水産株式会社は、令和4年から工場の本格稼働をしており、地元の海産物を使った燻製や干物、缶詰といった加工品を製造販売します。

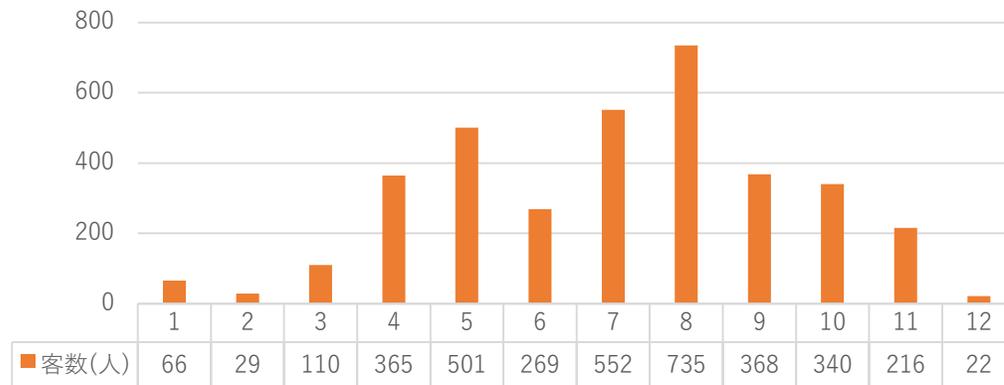
観光

過去5年間の観光入込客数(人)



本村の観光動態は、4月から徐々に増加し7月、8月をピークに減少、10月からオフに切り替わるという一般的な観光地の特性です。

平成31年の月別観光入り込み客数(人)



2大観光名所である赤ハゲ山、赤壁は車で約90分でめぐることができます。そのため旅行者の多くは、隣の島で宿泊し、短時間滞在する「通過型観光」になっています。村へお金を落とす仕組みとして宿泊施設の増加、体験型観光商品の開発が課題となっています。

地域の新規事業



どんどん（飲食店）



小新屋（民泊）

雇用機会拡充事業

- ① どんどん（飲食店）
- ② めにーでーる（ケーキ屋）
- ③ YL17株式会社（GPS関連等）



西谷商店（店舗改修）



のらり珈琲（珈琲カフェ）

村助成事業

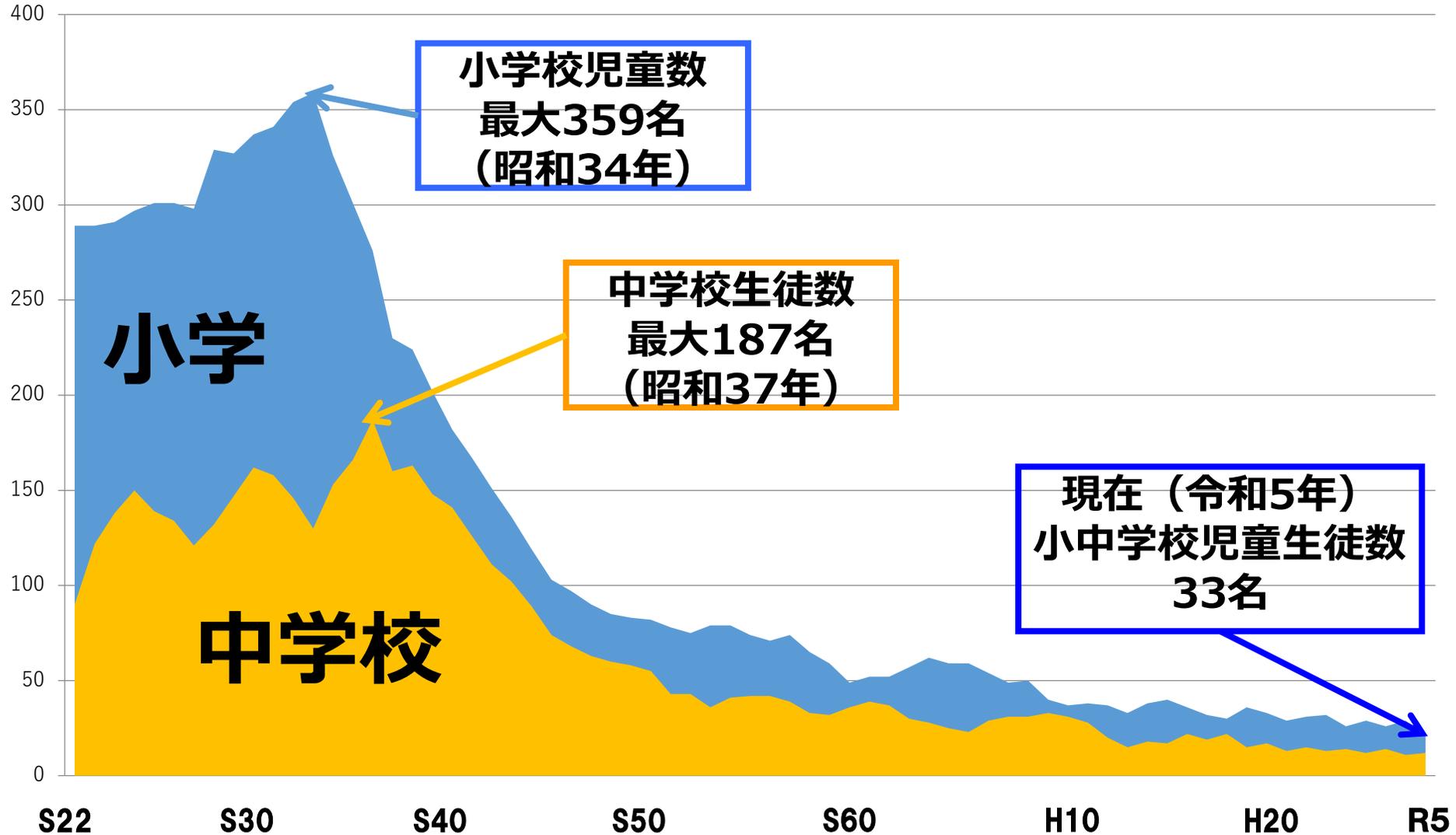
- ① 西谷商店（店舗改修）
- ② 小新屋（民泊）

個人開業

- ① のらり珈琲（珈琲カフェ）

教育

知夫小学校・知夫中学校の児童生徒数の推移(S22～R5)



教育

▽ 留学生の過去受け入れ実績

| | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-------|-------------------------|----------------------------------|-------------------------|-------------------------|----------------|-------------------------|
| 学年 | 中3：3名 中1：1名 小6：1名 | 中3：1名 中2：2名 中1：2名 小6：1名 | 中3：3名 中2：2名 中1：2名 | 中3：2名 中2：4名 中1：2名 | 中3：4名 中2：2名 | 中3：1名 中2：2名 中1：3名 |
| 男女比 | 男：3名 女：2名 | 男：3名 女：3名 | 男：3名 女：4名 | 男：2名 女：6名 | 男：2名 女：4名 | 男：3名 女：3名 |
| 新規・継続 | 新規：5名 継続：－ | 新規：5名 継続：1名 | 新規：3名 継続：4名 | 新規：4名 継続：4名 | 新規：0名 継続：6名 | 新規：5名 継続：1名 |
| 合計 | 5名 | 6名 | 7名 | 8名 | 6名 | 6名 |

生徒の受入(寮)

ハウスマスター 4名
教育コーディネーター 2名
調理員 4～5名

有効な補助金など活用してはいますが、収入が寮費しかなく離島留学にかかる費用は大きくなっています。

令和4年度 小中学校児童生徒数
32名(うち留学生6名)

外郭団体及び中間支援組織

合同会社島守ちぶり



設立 平成30年9月
所在地 知夫村来居1730番地6
代表社員 奥田 良樹
資本金 2002万円
従業員数 社員4名 パートアルバイト6名
業務内容 隠岐汽船来居扱店業務
来居港ターミナル管理業務
レンタカー貸出業務
宅配便配送業務
空家・墓管理
その他、地域課題解決業務

人口減少に伴い、島の産業も衰退しており「島の産業と雇用を支えるしごとをつくる」ことを目的に、村の資源を最大限活用し所得向上、雇用拡大に資する、まちづくり商社として立ち上げられ今年で5年目です。

生活環境整備

知夫村における住宅建設状況

| | | |
|--------|-----------|---------|
| 平成26年度 | 単身用 4戸 | 家族用 4戸 |
| 平成27年度 | シェアハウス 1戸 | |
| 平成29年度 | 単身用 8戸 | |
| 平成30年度 | 家族用 1戸 | |
| 令和 2年度 | 家族用 1戸 | |
| 令和 3年度 | 単身用 6戸 | 空家改修 2戸 |
| 令和 4年度 | 空家改修 2戸 | |

平成26年の住宅建設からはじまり平成27年を除き令和4年度の2戸を含めて住宅の整備を行っています。

一定の住宅の確保により、定住移住に対する住宅不足はある程度解消されたが、財政規模の乏しい本村に於いて、住宅建設には、補助金、起債による財源の確保は必然であるが、R3年度の住宅建設で一旦終了することは決定しています。今後は、空家改修等で住宅の確保を行うとともに、空家の有効活用も行う事としております。

村内の交通手段



レンタカー 4台

定期バス 1台

デマンドバス 3台

令和3年3月でタクシー事業者が廃業したため、令和3年度から村営デマンドバス（ハイエース）の運行を開始しました。

e-bike事業の取組み

滞在型観光施策として観光協会がe-bike（電動アシストスポーツバイク）のレンタルをおこなっています。

島前3町村で本体を融通し、不足時に連携が取れる体制を作っています。

